

(参考資料)

仙南地域広域景観マスタープラン（案）

令和2年7月時点

宮城県

仙南地域広域景観マスタープラン 目次

序 章

1. 計画策定の背景と目的…………… 1
2. 景観と人々の活動…………… 1
3. 本計画の位置づけ…………… 2
 - (1) 計画の体系…………… 2
 - (2) 仙南地域広域景観マスタープラン…………… 2
 - (3) (景観法に基づき県が策定する) 仙南地域広域景観計画…………… 3
 - (4) (各市町が景観行政団体移行後に策定する) 景観計画…………… 3

第1章 景観の特性と課題

1. 仙南地域の景観の素地と概況…………… 6
 - (1) 仙南地域の概況整理…………… 6
 - (2) 仙南地域の景観概況…………… 8
2. 広域的観点から見る仙南地域の景観特性…………… 38
 - (1) 特性1 蔵王連峰を中心に広がる雄大かつ象徴的な自然景観…………… 39
 - (2) 特性2 仙南の風土とともに生きる人々の営みがつくりだす景観…………… 41
 - (3) 特性3 水陸交通の要衝を担った歴史性を継承する都市・町場の景観…………… 43
3. 景観形成に係る課題…………… 45
 - (1) 景観形成のための3つの視点…………… 45
 - (2) 仙南地域における景観形成に係る課題…………… 46

第2章 景観形成に係る基本理念と方針

1. 基本理念…………… 49
2. 基本方針…………… 50
 - (1) 「まもる」ための基本方針…………… 50
 - (2) 「つくる」ための基本方針…………… 51
 - (3) 「育てる」ための基本方針…………… 52
3. 仙南地域の景観構造…………… 53
 - (1) 仙南地域における広域景観のイメージ…………… 53
 - (2) 仙南地域の広域景観の構造…………… 54
4. ゾーン別の景観形成方針…………… 57
 - (1) 蔵王・阿武隈山地ゾーン…………… 57
 - (2) 丘陵地景観ゾーン…………… 59
 - (3) 田園景観ゾーン…………… 61
 - (4) 歴史的な都市・町場…………… 63
 - (5) ネットワーク…………… 65

第3章 重点的な取組

1. 景観重点区域における景観形成に向けて…………… 67
 - (1) 景観重点区域について…………… 67
2. 景観重点区域の選定 …………… 68
 - (1) 仙南地域において景観特性を代表するエリアの抽出…………… 68
 - (2) 景観重点区域 …………… 74

第4章 今後の進め方について

1. 県と市町の役割分担の考え方…………… 83

序 章

1. 計画策定の背景と目的

自然、人々の生活、歴史・文化等が調和し形成される美しい景観は、私たちに潤いのある快適な生活環境を与えます。また、より良い景観は、地域の歴史と文化により培われてきた風格及び個性であり、私たちに地域への誇りと愛着を抱かせます。こうした景観は地域住民の共有の資産であり、現在及び将来の住民がその恩恵を享受できるよう、その形成を図らなければなりません。

一方、美しい景観は観光や地域間の交流の促進に大きな役割を担い、地域の活性化に資する面もあります。近年、人口減少が進む中、地域経済の活性化のために観光の振興が叫ばれるようになりました。国において、平成28年3月に策定された「明日の日本を支える観光ビジョン」では、「観光資源の魅力を極め、地方創生の礎に」の視点の下、景観づくりを通じて観光の振興を図ることとしています。

平成16年6月に制定された景観法では、地方自治体が景観行政団体となり、景観づくりの方針や基準を景観計画として定め、一定の方向性の下、地域の景観づくりを担っていくこととしています。本県においては、平成24年3月に「宮城県美しい景観の形成に関する基本的な方針」を定め、その中で、住民に最も身近な基礎自治体である市町村が景観計画を策定し、景観づくりに向けて中心的な役割を担うものとし、県は市町村の景観づくりをより一層進めやすくするための支援や先導を行いながら、景観形成に取り組んでまいりました。

仙南地域には、蔵王の雄大な自然を中心に魅力的な景観（観光資源）が広がっています。山や川などの大地とともにある景観は、自治体の枠を超えた広がりのある景観であると同時に“仙南地域らしさ”を支える象徴的な景観でもあります。広域的な観点から景観形成の方向性を共有し、広域的な施策の連携を図ることにより、より効果的に景観づくりを進めることができると考えます。

仙南地域広域景観マスタープラン（以下、「本計画」という。）では、仙南地域の景観を“一体的な景観”と捉えて、“仙南地域らしさ”を醸し出す景観特性を整理し、景観形成における共有すべき方針を定めた上で各市町が連携して景観づくりに取り組むことにより、広域全体としての相乗効果を育み、ひいては仙南地域の活性化に資することを目的とします。

2. 景観と人々の活動

景観は、その地域がもつ固有の自然環境と、その上に時間をかけて展開されてきた人々の営みや歴史文化の積み重ねの表れです。良好な景観とは、地域の自然、歴史、文化等と人々の生活、経済活動が調和し、多様な生物の生息が可能となる環境であることをも包括した、快適で魅力的な環境であると言い換えることがで

きます。

そのため、より良い景観を形成していくことは、そこに住む人々の生活を豊かにしていくことに繋がります。その実現には、そこに住む人々が地域の姿や地域らしさについて、景観を通して考え、具体的な取組につなげていくことが重要です。

3. 本計画の位置づけ

景観は、自然環境と人々の営み、歴史文化の積み重ねによって形成されるものです。そのため、景観形成にあたっては、広域的な視点をもって取り組むことが重要です。同時に、景観は地域独自の特性によって形成されるものでもあるため、地域を知り、寄り添い、地元と協働で景観の魅力を認識し、高めていくことも求められます。

そのため、県が中心となって広域的な方針等を示し、市町がより地域に密着した魅力的な景観を発掘し、その魅力を高めていく等、県と市町が役割分担をしながら連携して景観形成を図ることが求められます。

そこで、仙南地域では、広域的に共有すべき景観形成方針として「広域景観マスタープラン」を定めた上で、広域的観点から景観法に基づく行為制限を必要と考える地域を対象に、景観法に基づく「景観計画」を定めるものとします。

この役割分担を踏まえ、本計画の体系を整理するとともに、県と各市町それぞれが策定する計画について整理します。

(1) 計画の体系

本計画は、「宮城県美しい景観の形成に関する基本的な方針」に掲げる「まもる」、「つくる」、「育てる」の基本目標の下、県が仙南地域の市町と連携して、景観づくりの取組を推進するための共通の理念と方針を「仙南地域広域景観マスタープラン」として定めるものです。

また、本計画に基づき広域的観点から重点的かつ具体的に景観形成を図るため「(景観法に基づく)仙南地域広域景観計画」を別途策定することにより、実効性を持った景観形成の取組を進めることとします。さらに、より地域に密着したきめ細やかな景観形成の取組を推進するにあたっては、各市町が景観行政団体となり、本計画を踏まえ、「広域景観計画」に基づく取組をベースとした、地域独自の景観計画に磨きあげていくこととなります。

(2) 仙南地域広域景観マスタープラン

平成28年3月に改正された「景観法運用指針」では、地形、自然、歴史、文化等という観点で同一の特徴を有している地域を単位として、複数の自治体間にわたる広域的な景観の形成について、各自治体の取組が支障なく整合的に行われるよう、目指す景観の目標像を共有しながら景観計画を策定するための

「広域的な景観の形成のためのマスタープラン」を作成する手法が示されました。

「仙南地域広域景観マスタープラン」は、仙南地域における広域的な景観の特性を明らかにするとともに、地域の人々が共通の理念の下、仙南地域全体として共有すべき景観づくりの方針を示すものとして策定するものです。また、地域住民・事業者・行政の間において、地域らしさを担う魅力的な景観について認識の共有化を図るためのものです。

(3) (景観法に基づき県が策定する) 仙南地域広域景観計画

「仙南地域広域景観計画」とは、「仙南地域広域景観マスタープラン」において広域的な観点から景観形成上重要な地域のうち、景観法に基づく具体的な景観形成の取組が必要な地域を対象に、景観計画区域を定め、良好な景観形成の方針及び景観形成基準等を定めることにより、具体的な景観の保全・形成を行うものです。

景観計画区域内の建築や開発行為等を行う際、良好な景観の保全・形成のために守る必要のある景観形成基準を設定し、今ある景観との調和や新たな魅力を創り出すよう誘導を図ることにより、景観形成に実効性を持たせるものです。各区域内の景観形成に関する方針は、地域住民及び関係市町との意見交換を行いながら定めます。

(4) (各市町が景観行政団体移行後に策定する) 景観計画

本計画が策定された後は、県及び関係市町は本計画の方針に基づき、連携して景観形成を図っていきます。

また、関係市町が景観行政団体に移行し、景観法に基づく景観行政の権限が移譲される際には、県が策定した「広域景観計画」のうち、各自治体に該当する内容及び取組は継承した上で、各地域の実情をふまえ、よりきめ細やかな景観形成につながるよう、市町が主体となった「景観計画」へと見直しを行っていくことが望ましいと考えます。その際には、再度、各市町が主体となって地域住民との意見交換をより詳細に行い、既存の景観計画を磨きあげていくことを推奨します。

■仙南地域広域景観マスタープラン及び景観計画の位置づけ

宮城県美しい景観の形成に関する基本的な方針
(平成 24 年 3 月策定)

仙南地域における広域景観形成

仙南地域広域景観マスタープラン

主な策定項目

- ・仙南地域の景観形成に係る「基本理念」及び「基本方針」等
- ・広域的観点から景観上重要な地域の設定

景観行政団体移行後

(景観法に基づき県が策定する)
仙南地域広域景観計画
【景観法第 8 条】

- 主な策定項目 (対象:仙南地域)
- ・景観計画区域 (重要な地域のうち新たな制限が必要な区域)
 - ・区域ごとの景観形成に関する方針
 - ・良好な景観の形成のための行為の制限に関する事項
 - ・その他良好な景観形成に必要な事項

権限移譲



継承

(各市町が策定する)
〇〇市 (町) 景観計画
【景観法第 8 条】

- 主な策定項目 (対象:各市町)
- ・(広域景観計画で定めた区域を含む) 景観計画区域
 - ・区域内の景観形成に関する方針
 - ・良好な景観の形成のための行為の制限に関する事項
 - ・その他良好な景観形成に必要な事項

■仙南地域広域景観マスタープラン 体系図

【仙南地域広域景観マスタープラン】

【仙南地域広域における景観形成の基本的な考え方】

第1章 景観の特性と課題

1. 仙南地域の景観の素地と概況

2. 広域的観点から見る仙南地域の景観特性

3. 景観形成に係る課題

第2章 景観形成に係る基本理念と方針

1. 基本理念

2. 基本方針

3. 仙南地域の景観構造

4. ゾーン別の景観形成方針

宮城県
美しい景観の形成
に関する基本的な
方針
(平成24年3月)

仙南地域の広域景観の特性を踏まえ、
仙南地域らしさを象徴する代表的な区域を選定

【重点的施策の展開】

第3章 重点的な取組

1. 景観重点区域における景観形成に向けて
景観重点区域の考え方と位置づけについて整理

2. 景観重点区域の選定
1に基づき景観重点区域を抽出・選定
景観の保全・形成に関する取組の方向性を整理

景観重点区域のうち

自然公園法における国定公園許可
地域に指定され、景観の保全が行
われている

今後、必要に応じて許可基準
を踏まえ検討

景観法に基づく景観計画を
活用した景観まちづくりへ

【仙南地域広域景観計画】

広域景観計画の策定による
緩やかなコントロール

第1章 景観の特性と課題

1. 仙南地域の景観の素地と概況

(1) 仙南地域の概況整理

1) 仙南地域の位置

仙南地域は、宮城県の内陸南部に位置し、白石市、角田市、蔵王町、七ヶ宿町、大河原町、村田町、柴田町、川崎町、丸森町の2市7町で構成される広域圏です。

地域の北部から東部にかけて、仙台市、名取市、岩沼市、亶理町、山元町と接しており、西部は山形県、南部は福島県と接しています。

広域交通網を見ると、東北自動車道が仙台市から村田町、蔵王町、白石市を南北に通って福島県へ至り、山形自動車道が村田町から川崎町を通して山形県へ至ります。また、国道4号が岩沼市から柴田町、大河原町、白石市を通して福島県へ至ります。

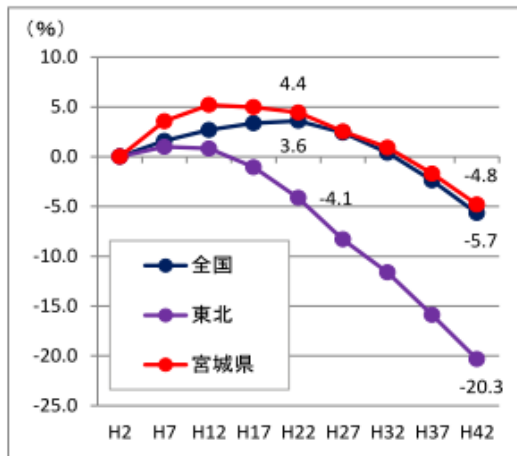
鉄道網を見ると、JR東北新幹線、JR東北本線、阿武隈急行線の3路線が通っています。



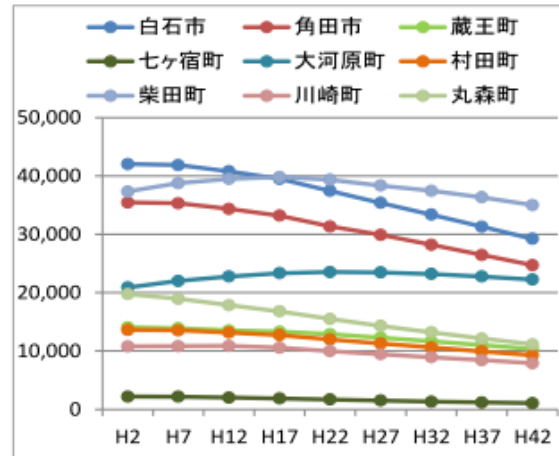
▲仙南地域の範囲

2) 人口推移

全国・東北・宮城県の人口増減の推移を見ると、宮城県では平成12年以降減少傾向にあり、全国平均とほぼ同率で減少していくことが予想されます。また、仙南地域の各市町でも、大河原町を除いた市町では平成17年以降人口が減少しており、この傾向は今後も継続することが予想されています。人口減少は経済全体の規模の縮小を招くことから、それを補うために交流人口の一層の拡大が求められています。



▲全国・東北・宮城県の人口増減の推移



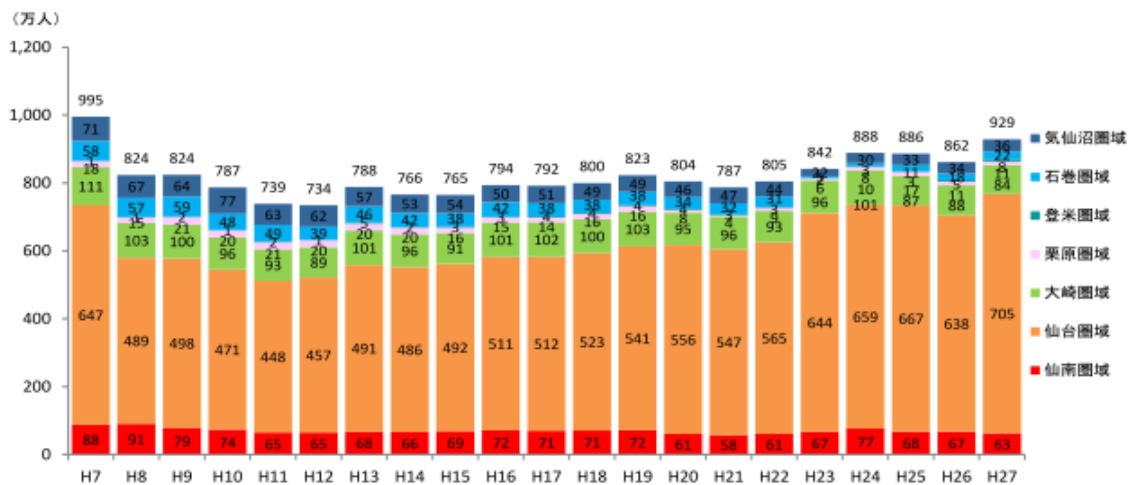
▲仙南2市7町の人口の推移

資料:平成2～22年は各年国勢調査

平成27年以降は「日本の地域別将来推計人口(平成25年3月推計)」/国立社会保障・人口問題研究所

3) 観光

宿泊客数が増加している仙台圏域とは対照的に、仙南地域は20年前より3割減少し、近年は横ばい傾向で推移している状況です。仙南地域は蔵王を中心とした恵まれた観光資源が豊富に存在することから、これらの資源を磨き上げるとともに、その魅力を効果的に全国に発信するなどの取組が求められます。



▲県内各圏域の宿泊客数の推移 (観光統計概要/宮城県)

(2) 仙南地域の景観概況

1) 仙南地域の地形・風土

①地形

仙南地域西部に位置する蔵王連峰は、宮城県と山形県に跨る最大標高 1,800mを超える山々からなる山岳地です。大きく裾野を広げるその姿は地域内のいたるところから見る事ができ、仙南地域を象徴する景観のひとつとなっています。

蔵王連峰は奥羽山脈に連なる活火山であり、山頂には噴火跡のカルデラ湖である御釜や滝などの特徴的な地形、山すそ付近では雪解け水による豊かな地下水と地熱が合わさった温泉地が多数見られ、仙南地域の多様な景観の素地となっています。

一方、東南には阿武隈山地が広がり、西の蔵王連峰と合せて盆地地形を形成しています。阿武隈山地は古い地層が隆起してできた山脈ですが、長い時を経て現在のなだらかな山地へと変容してきました。また、角田市の斗蔵山や柴田町の四保山(船岡城址公園)等、市街地近接部にも丘陵地が位置します。阿武隈山地は、標高の高い蔵王連峰とは対照的に標高が低くなだらかな山々が連なり、人々の生活に寄り添った里山景観を形成しています。



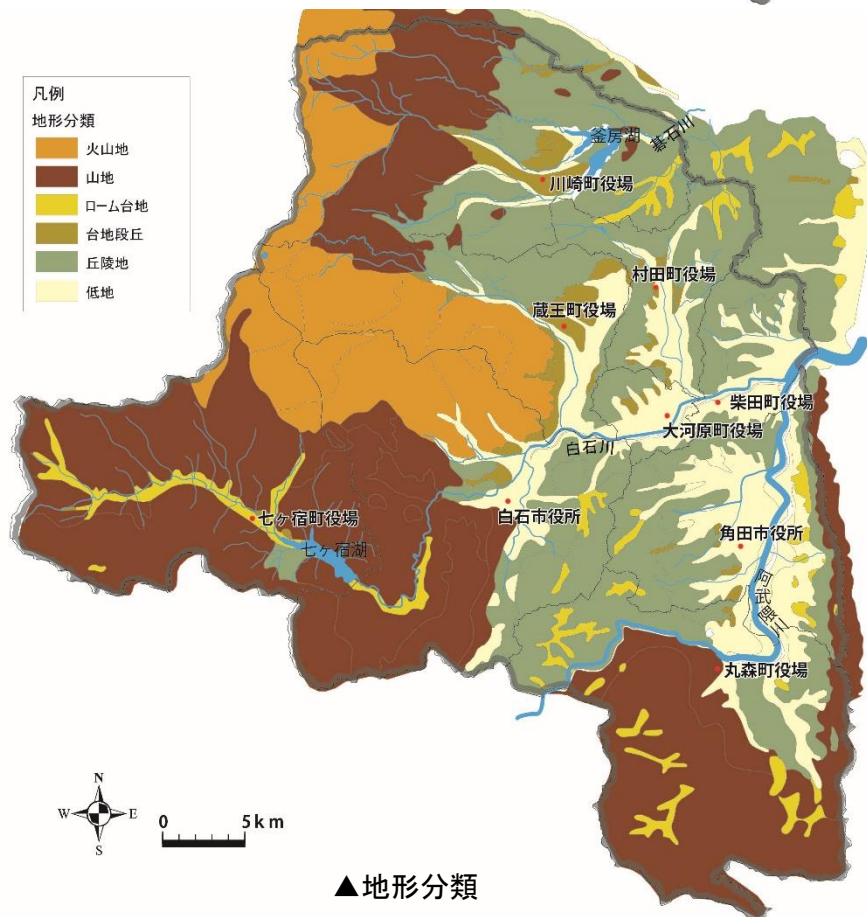
▲蔵王連峰 (大河原町)

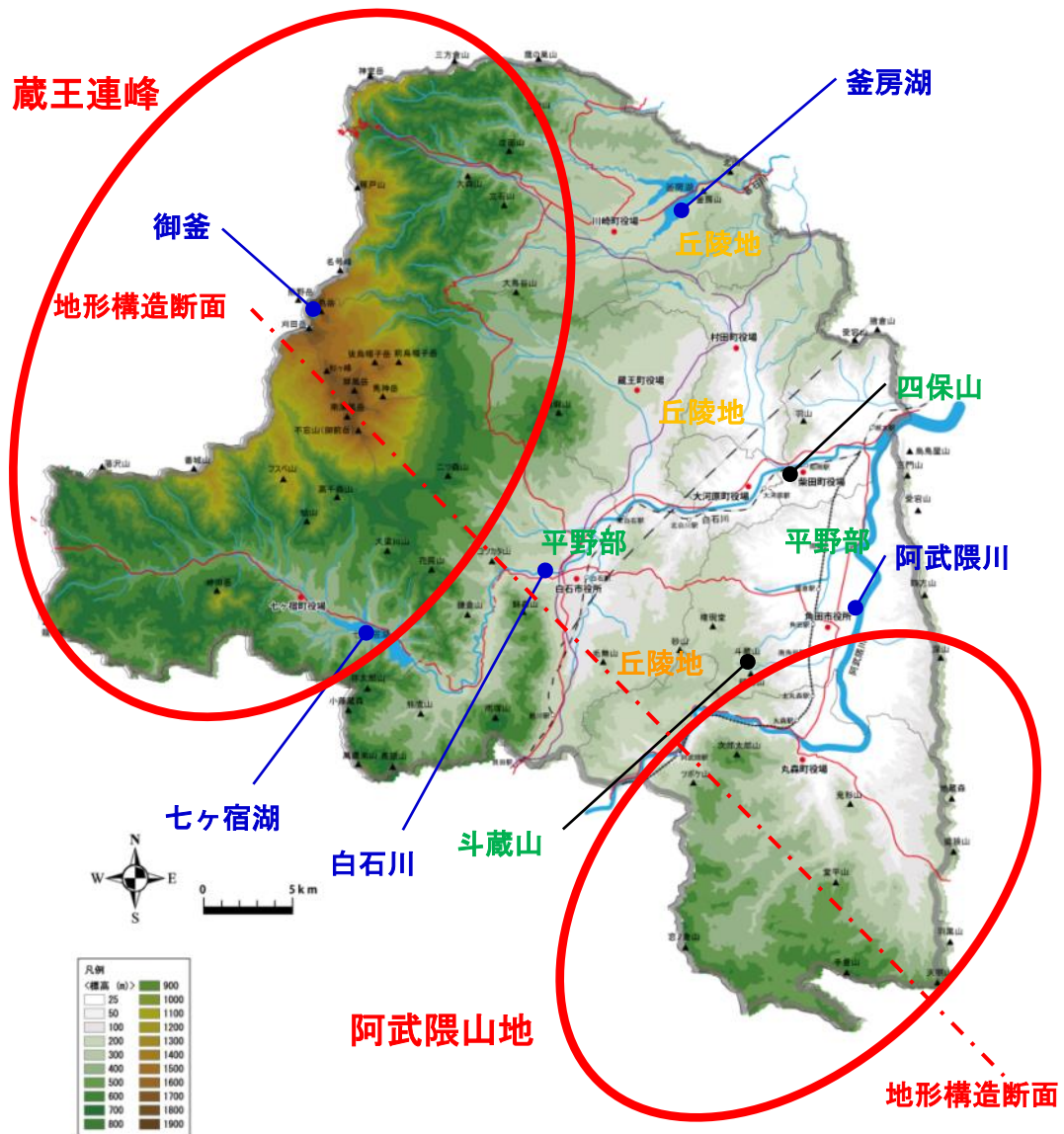


▲阿武隈山地 (丸森町)

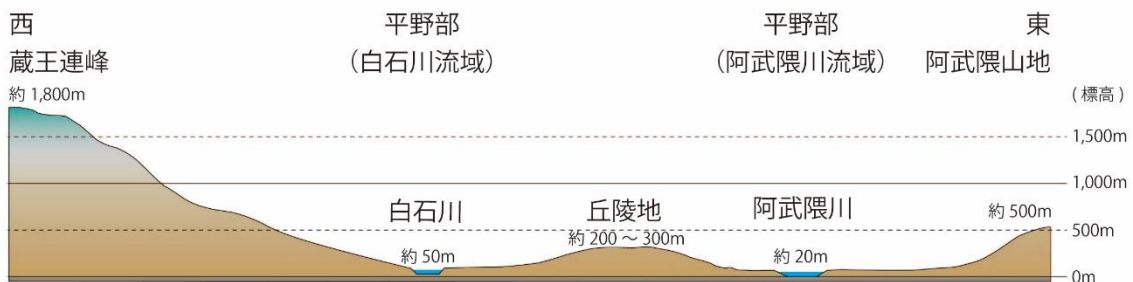


▲四保山 (柴田町)





▲地形水系図 (山地)



▲仙南地域の地形構造断面イメージ

②河川（流域・水系）

仙南地域は、阿武隈川及び白石川による阿武隈川水系を中心とした阿武隈川流域と、川崎町から東へと流れる名取川流域の大きくは2つの水系から形成されています。

阿武隈川は福島県に源流を持ち、丸森町と角田市の境界付近から広く穏やかな下流域となり、水の流れによる豊かな水辺の景観が広がります。一方、白石川は阿武隈川の支流にあたり、七ヶ宿町に源流を持ちます。途中七ヶ宿町東側には「ダム湖百選」にも選ばれた七ヶ宿湖が建設され、仙台都市圏における重要な水源地として、広がりのある水辺景観が見られます。

平野部では、白石市から大河原町、柴田町の市街地を経て阿武隈川の流れと合流し、太平洋へと注ぎます。白石市では、白石川からまちなかに水が引き込まれ、掘割や水路では今でも絶えず水が流れる景観がみられます。水の流れは、かつての城下町の都市防衛や生活用水としての利用を伝える景観要素として、白石の城下町らしさを醸し出す景観となっています。大河原町から柴田町にかけては、川幅が広がり穏やかな下流域らしい川の様子に変わり、両岸に植樹された桜並木とともに美しい水辺景観が人々に親しまれています。特に春には、冠雪の蔵王と桜と白石川がつくりだす仙南地域を象徴する春の美しい景観が見られます。

川崎町を流れる3つの河川の水を受ける名取川水系の釜房湖は、七ヶ宿湖と同様に、仙台都市圏の重要な水源地を担う水辺であると同時に、遠くに蔵王連峰を望む雄大な水辺景観を形成しています。



▲阿武隈川（角田市）



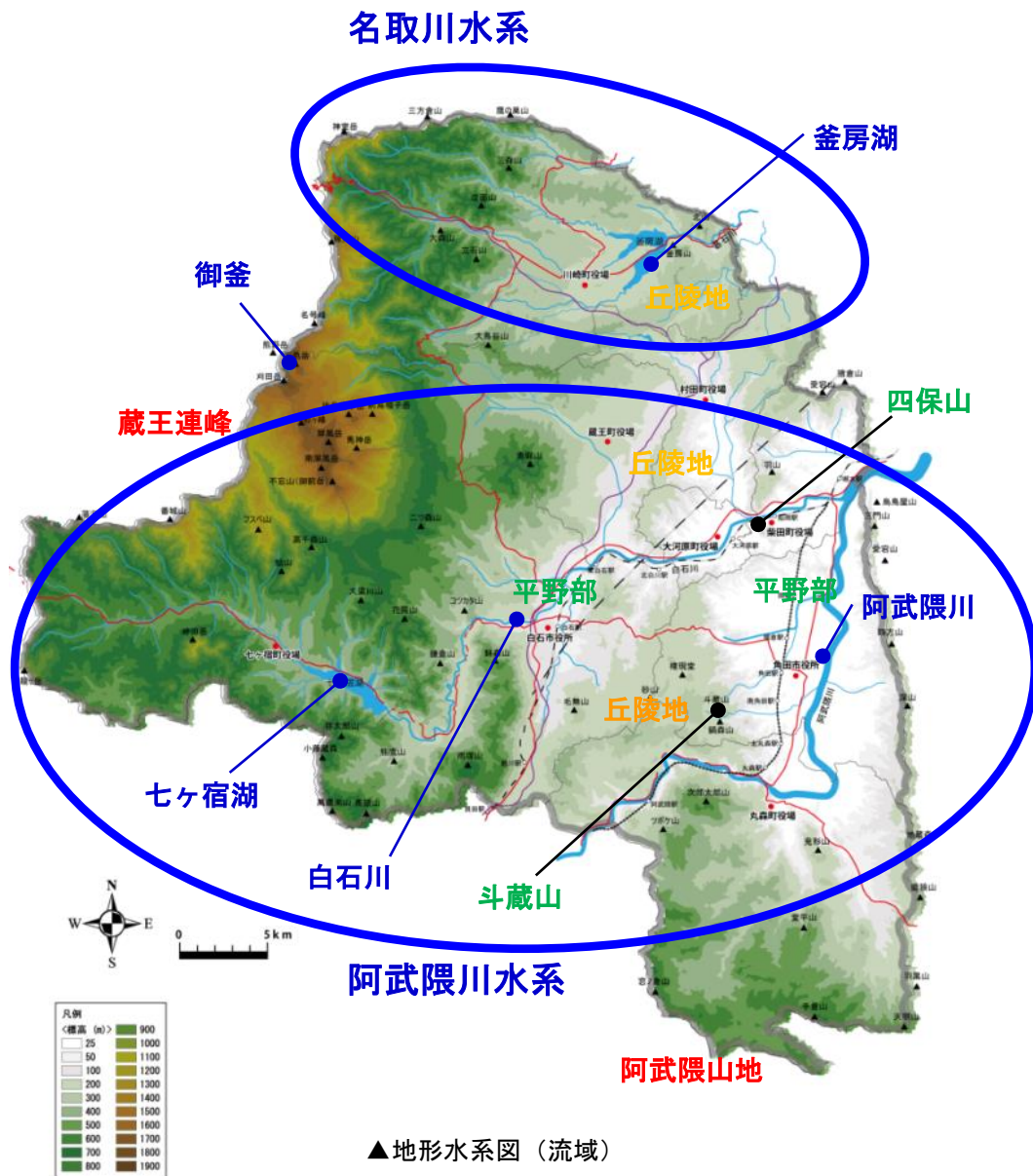
▲白石川（大河原町）



▲釜房湖（川崎町）



▲七ヶ宿湖（七ヶ宿町）



③気候

仙南地域では、蔵王連峰による標高差から、場所によって大きく気候が異なります。西側の山間部では冬から春にかけて積雪が残り、また、冬には丘陵地や平野部でも積雪します。

そのため、仙南地域の山間地では主に広葉樹が多く広がることから、夏には豊かな緑、秋には鮮やかな紅葉が見られるなど、季節によって山の彩りが大きく変化します。

また、山間地を中心に積雪が多いエリアであり、冬の蔵王連峰は一面真っ白な景観に変化します。山麓・低地エリアでも積雪が多いため、冬場は一面の銀世界の景観が広がることも気候条件から見える景観の特徴の一つです。

さらに、この積雪による気象上の特性によって、西から東へ蔵王連峰からの強い吹き降ろしの風「蔵王おろし」が吹きます。風は本来目に見えませんが、このような強い風から屋敷地や農地を守るための人々の工夫として、田園地域では、街区上に建ち並ぶ防風林や、屋敷や蔵を取り囲む屋敷林を見ることができます。



▲紅葉する山（七ヶ宿町）



▲厳冬の刈田嶺神社（蔵王町）



▲防風林（川崎町）

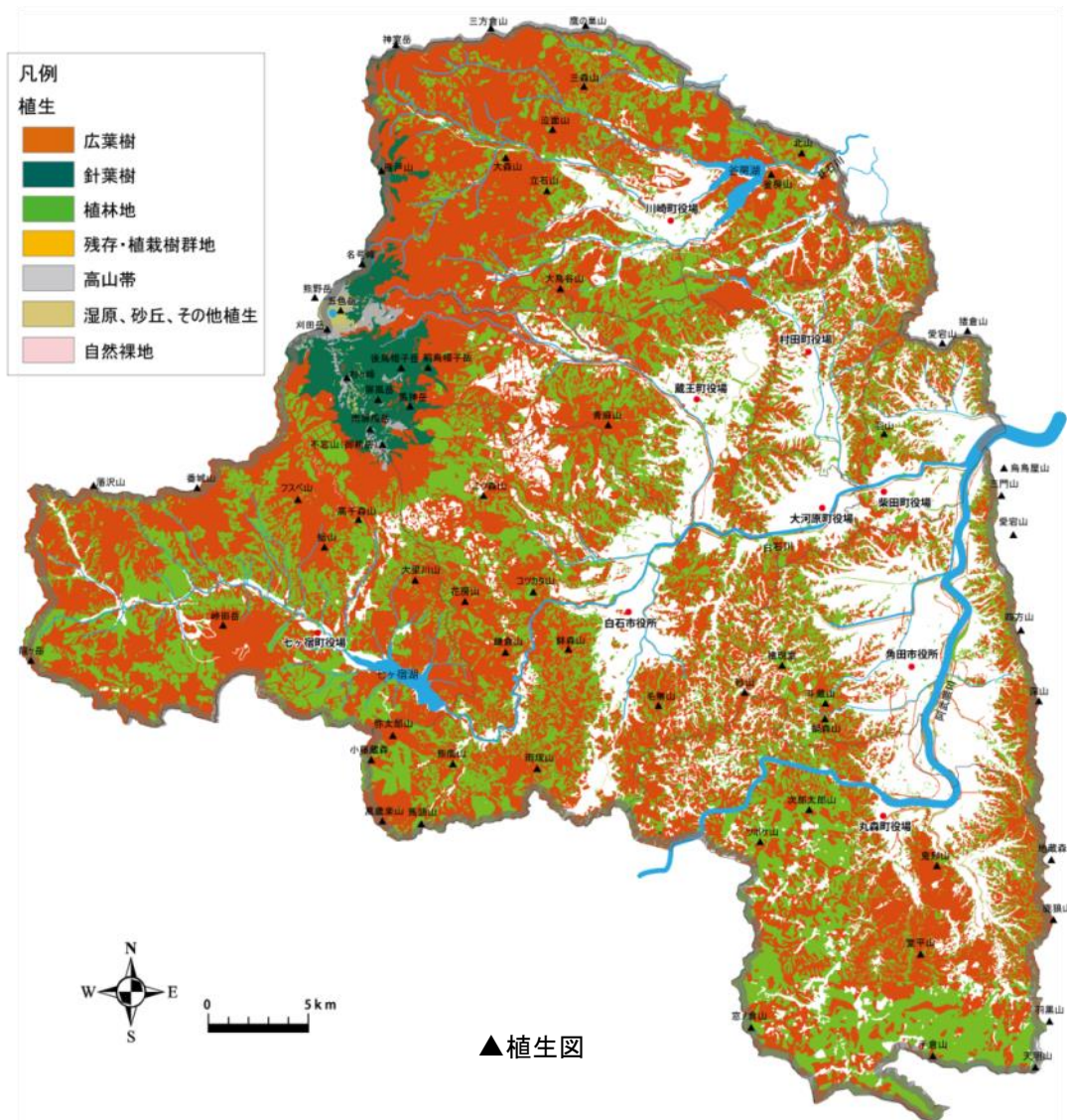
④植生

蔵王連峰の標高の高い場所では高山性の植生が見られ、山麓エリアでは広葉樹と植林地（針葉樹）が混ざり合うパッチワーク状の林相が見られます。これらは冬になると、落葉する広葉樹と常緑の針葉樹への積雪の違いにより、植生の混ざり合った景観がいつそう際立つことで山の特徴を伝える景観となっています。

植林地（針葉樹）



▲針葉樹と広葉樹のパッチワークの様子（蔵王町）



2) 仙南地域の生業・経済活動

①農山村における暮らしと生業

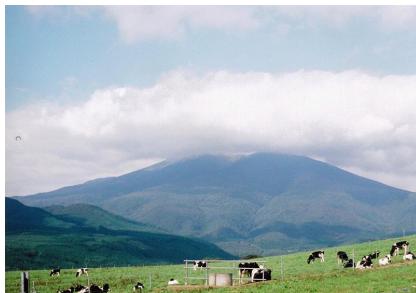
耕作地の分布状況を見ると、蔵王連峰の標高 500～800mほどの高原では牧草地や高地で栽培するそばなどの畑，斜面地での棚田，標高 200～400mの山麓・丘陵部では果樹園，標高 200m以下の沖積地では広く水田が分布し，地形に沿った生業が展開しています。

高原では牧草の栽培とともに酪農が盛んに行われ，特徴的な景観を形成しています。高原の地形や気候風土に応じた農作物の栽培や，斜面地での棚田は，その土地の人々が自然に折り合いながら営みを育んできた文化が景観として表れています。

山麓・丘陵部にあたる蔵王町を中心に，扇状地の中腹において水はけのよい土地の特性に応じた果樹栽培が盛んで，果樹園を中心に季節の花や実りある景観が広がっています。

河川沿いを中心とした沖積地では，阿武隈川水系の豊かな水が広大な農地を潤し，豊かな恵みをもたらす田園景観を形成しています。

このように，多様な移ろいを見せる仙南地域の耕地の面積については，平成 17年から平成 27年の 10年間で，20,430ha から 19,044ha と 6.8%減少しています。特に，畑は 8,330ha から 7,351ha と 10%以上減少しています。近年は，より減少傾向が顕著になっています。



▲高原の牧場（七ヶ宿町）



▲山間の棚田（丸森町）



▲丘陵部の果樹園（蔵王町）



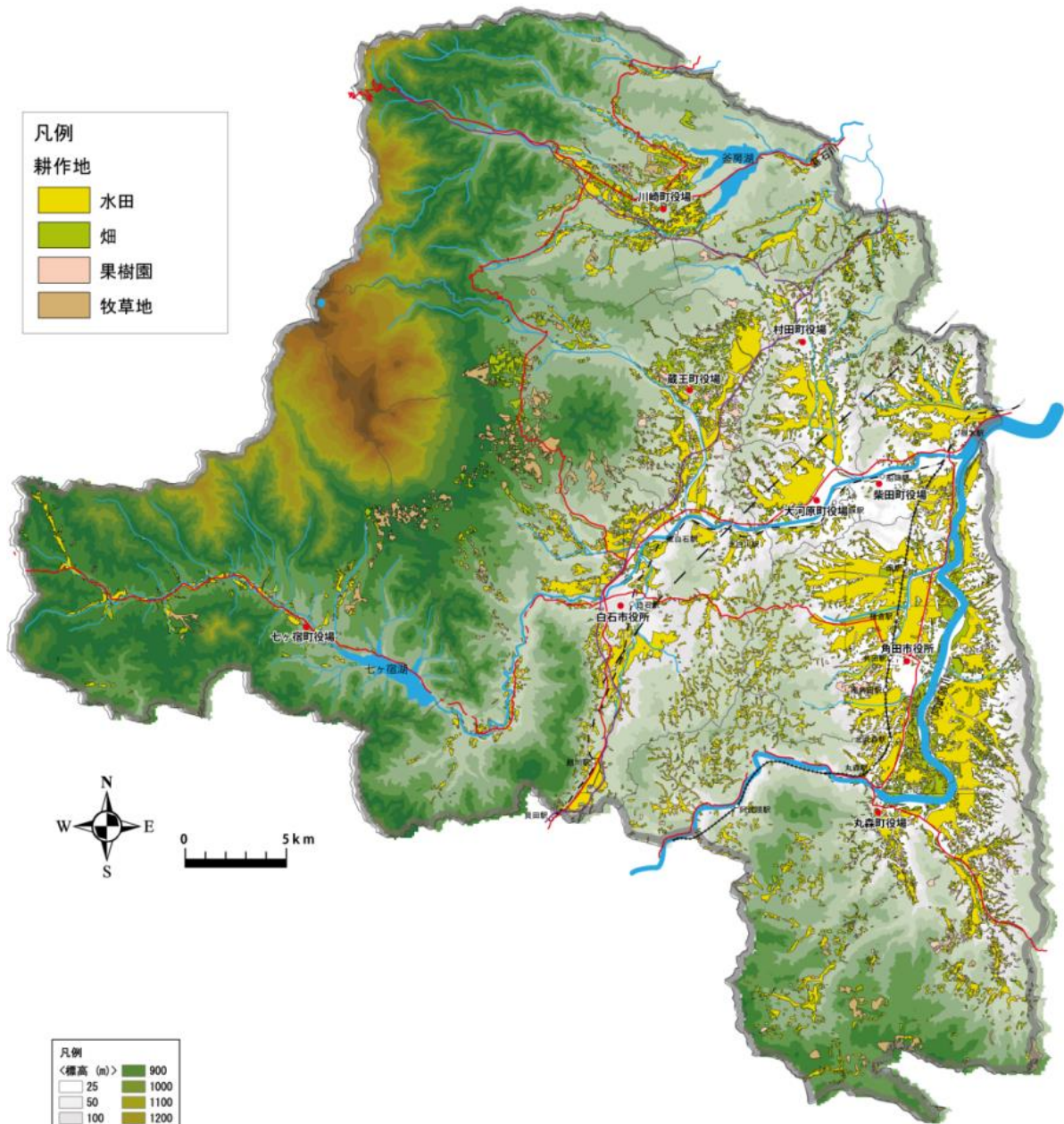
▲高原のそば畑（柴田町）



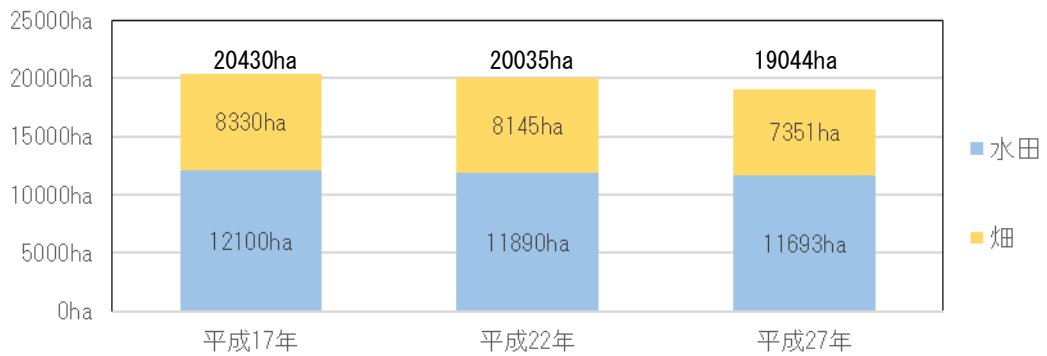
▲広がりある田園（角田市）



▲広がりある田園（蔵王町）



▲耕作概況図



▲仙南地域における耕地面積の推移（耕地及び作付面積統計／農林水産省）

②特徴的な気候風土と折り合う生活・生業

仙南地域では、「蔵王おろし」と称される強い風が吹きおろすのが特徴です。

仙南地域の田園地域では、強い雨風から家屋・農地を守るための屋敷林や防風林が多く見られます。特に、川崎町では、街区上に一列に高木が立ち並ぶことにより農地や屋敷地全体を強い風雨から守る防風林が特徴的です。

また、仙南地域では、蔵王連峰の火山性の大地と雪解け水などによる豊かな地下水により山麓のいたるところで温泉がわきだすことから、古くから湯治場が各地で発展し、それぞれの温泉地では、山麓の自然とともに風情ある景観が形成されています。特に、遠刈田温泉では、温泉の排水を冬場の融雪に利用するなど、温浴だけでなく暮らしの中でも温泉の恵みを活用しており、まちなかにおいても道路脇から湯気が湧き上がる特徴的な景観が見られます。

蔵王町や七ヶ宿町では、蔵王連峰の地形や自然公園としての豊かな自然を活用し、山の斜面を整備することにより、夏はキャンプ場、冬はスキー場として利用し、地形と気候を活かした自然の豊かさを享受できるレクリエーション活動が見られます。



▲町の中に林立する防風林（川崎町）



▲遠刈田温泉街（蔵王町）

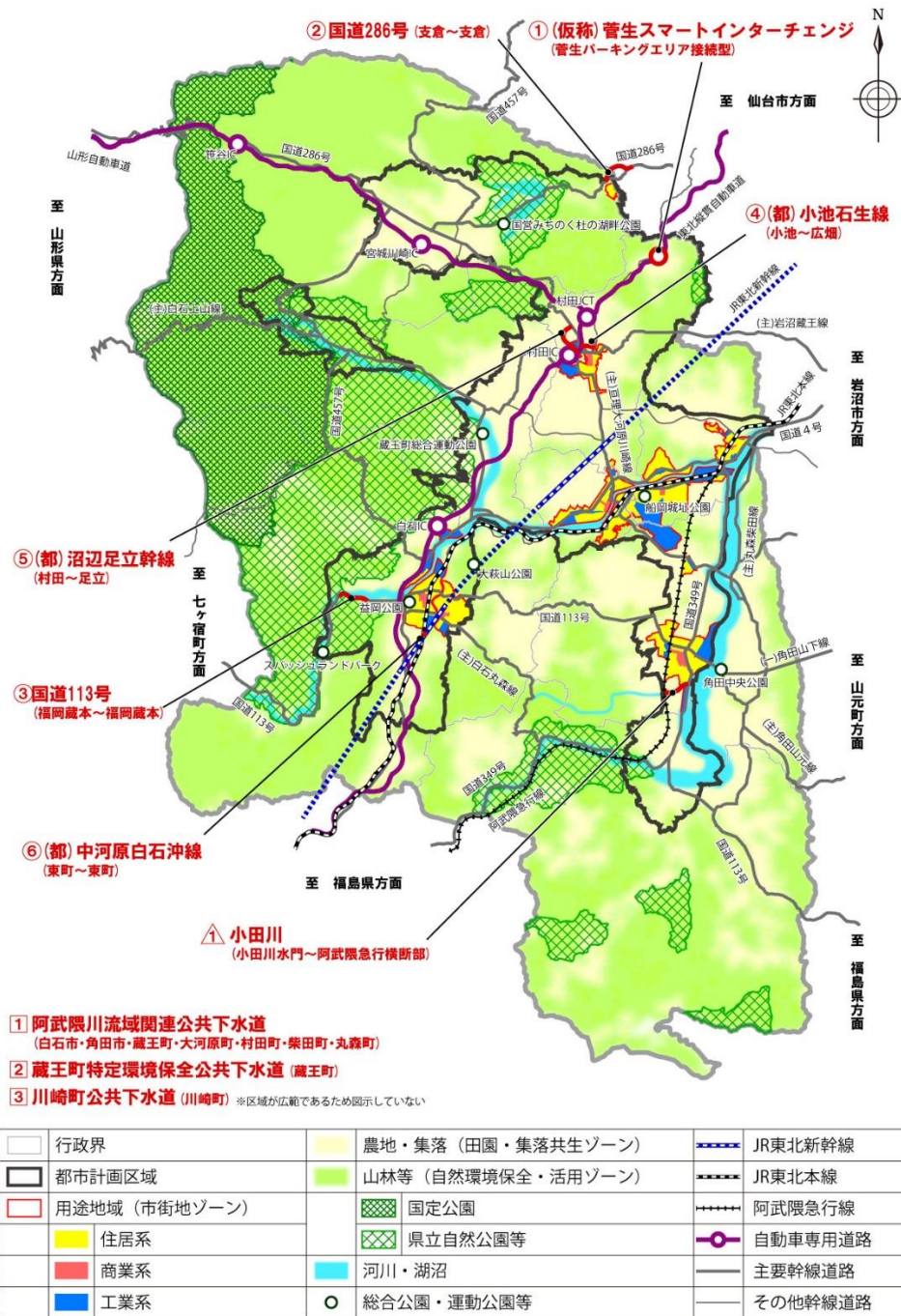


▲キャンプ場兼スキー場（七ヶ宿町）

③都市の成り立ち

蔵王連峰の急峻な地形と阿武隈山地やその他の丘陵地が多い仙南地域では、低地が少なく、山間盆地や河川沿いの平野部を中心に都市や町場が形成されています。そのため、白石市、角田市、蔵王町、大河原町、村田町、柴田町、丸森町、川崎町に都市計画区域が指定され、そのうち白石市、角田市、大河原町、村田町、柴田町、川崎町の市街地に用途地域が指定されています。

これらの都市や町場は、その歴史的背景から都市の成り立ちについて整理することで、大きくは3つのタイプに分けられます。



▲仙南広域都市計画区域 付図 (仙南広域都市計画区域の整備、開発及び保全の方針・令和2年5月)

◆交通の要衝として栄えた町

白石市、柴田町、村田町、川崎町、角田市は、それぞれに城砦があり、中世期から交通の要衝であり軍事上の要衝を担う土地でもありました。

仙南地域は、藩政時代には国境であることから、城を中心に城下町が形成され、その町割りはおおよそ維持され、町並みを通して町の歴史性を見ることができます。なかでも、白石市では、西側から吹き降ろす風に対して城山が風よけとなるよう城下町を配置し、白石川を城の防衛や生活用水として堀や水路として城下町に引き込む等、地形を活かした都市がつくられ、現在の市街地の景観の素地となっています。



▲白石城（白石市）



▲堀割と武家屋敷地（白石市）



▲交通の要衝として栄えた町 位置図

◆水運・陸運等の流通で栄えた町

丸森町は、阿武隈川の水運により米や物資の輸送における川湊として栄えた歴史を持ち、水運の役割が終わった現在でもライン下り観光等、川とのつながりを持つ町場です。洪水の被害を避けるため町場の中心機能を移動させた現在でも、豪商として名をはせた旧齋藤家住居である「齋理屋敷」をシンボルとした地域づくりが行われ、観光名所として大事に活用しています。

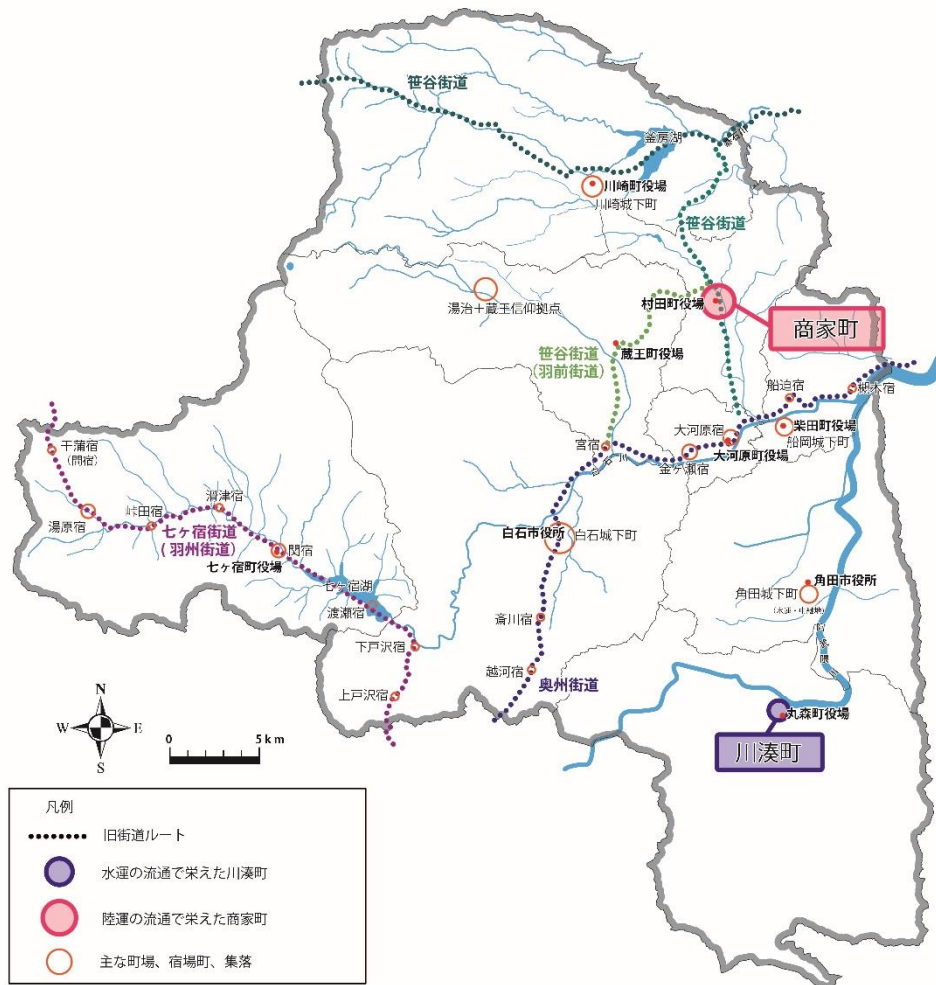
村田町は、近世期には紅花をはじめとした商品の上方への流通で栄えました。村田町を通る街道は、仙南地域で生産された紅花の集荷・流通の拠点として店蔵が建ち並び、現在でも住宅や店舗として大切に利用されており、特徴的な町並みが維持されています。



▲川湊の名残と店蔵（丸森町）



▲店蔵が連なる町並み（村田町）



▲水運・陸運等の流通で栄えた町 位置図

◆街道沿いの宿場町として栄えた町

仙南地域は、古くから奥州街道をはじめとして、七ヶ宿街道、笹谷街道などが通る交通の要衝でした。よって宿場町として多くの宿が立地し、現在も町場として残っています。

奥州街道は、江戸から白河、さらには青森県の三厩までの道を繋いでおり、かつての江戸と奥州を繋ぐ重要な道でした。仙南地域では、白石市から柴田町（槻木宿）まで宿場町が並び、そのときの町場での道と建物の関係や営みの名残が、今の市街地の景観の素地となっています。

七ヶ宿町は、山形へ抜ける七ヶ宿街道が町の中心を通っており、かつては町名の通り街道沿いに7つの宿場町がありました。七ヶ宿湖の建設により1つの宿がなくなりましたが、町内には旧関宿、旧滑津宿、旧峠田宿、旧湯原宿の4つが町場として残っています。

笹谷街道は山形・秋田へ繋がる羽州街道の一部で、村田町から川崎町を通って山形へ向かいます。川崎町では、大きく立ち並ぶ松並木がかつての街道としての道筋を象徴する景観となっています。



▲宿場町の名残と店蔵（大河原町）



▲宿場町の名残（七ヶ宿町）



▲街道を示す松並木（川崎町）



▲仙南地域の旧街道と街道沿いの宿場町として栄えた町 位置図



▲ (参考) 周辺の旧街道マップ

④交通ネットワーク

◆道路網

仙南地域は、白石市から柴田町にかけて国道4号線が通っており、交通利便の良さから大規模な商業施設が建ち並ぶ沿道景観が見られます。高速道路は、東北自動車道と山形自動車道が通っており、広域交通の要であるとともに、仙南地域に入ると車窓からは雄大な蔵王連峰や自然景観を望むことができます。

これら広域交通網の多くは、歴史的な広域ネットワークを形成してきた街道に由来しており、国道4号は奥州街道の経路にほぼなぞらえた形で整備され、その他街道も国道や県道として整備されて、昔も今も変わらず仙南地域の流通・往來を支える重要なルートを担っています。



▲国道4号沿道（大河原町）



▲国道4号沿道（白石市）

◆鉄道

近代に入り鉄道が整備されることにより、鉄道が担うネットワークは、人や物の動きを変える都市形成や産業活動において大きな影響をもたらします。

仙南地域では、JR東北本線とJR東北新幹線、阿武隈急行線が通っています。これら鉄道は、近世までの輸送手段であった水運に変わり、古くから町場として成り立っている市街地に沿って設置され、多くの町は歴史的市街地の縁に玄関口として鉄道駅が整備されていきます。駅前では、都市の発展とともに新たな市街地が形成され、現在の市街地景観へと変化してきました。

また、JR東北本線は、東白石駅から槻木駅にかけて白石川沿いを走ることから、車窓からしばしば河川景観を望むことができます。阿武隈急行線は、福島との県境から丸森町までの間、阿武隈川沿いを走ることから、溪谷を流れる阿武隈川の河川景観を望むことができます。



▲白石川とJR東北本線（柴田町）



▲東白石駅から見る白石川（白石市）

◆観光ルート

近世には、蔵王信仰から派生した「蔵王詣で」が盛んとなり、仙南地域には多くの来訪者（現在でいう観光客）を迎え入れてきました。

近代に入り、美しい自然環境を楽しむエッセンスが加わり、雄大な蔵王連峰への登山道として「蔵王エコーライン」及び「蔵王ハイライン」が整備され、山頂まで車で行くことができ、道中の自然景観や山頂の雄大な景観を見ることができます。



▲蔵王エコーラインの紅葉（蔵王町）



▲蔵王エコーラインからの眺め（蔵王町）



▲交通網図

⑤史跡・民俗（文化）

仙南地域に分布する史跡や様々な民俗（文化）は、仙南地域で生きてきた先人たちの営みが現在までどのようにたどってきたのか、その歴史性を知る重要な要素の一つです。それらは、今を生きる人々の営みと一体となり、地域らしさの一躍を担う景観となっています。

◆史跡

仙南地域は、阿武隈川下流域を中心に古墳が多く見られます。代表的なものとして、角田市の大久保古墳群、丸森町の台町古墳群が上げられます。古墳の存在は、この界隈が古代より安定した土地として、人々の営みが継続されてきた豊かな土地であったことを今に伝えています。

現在、これらは、集落の近くにそびえる小高い里山のような状態となり周囲の田畑と一体的な緑の景観を形成しており、地域にとって大切な場所として保全が図られています。



▲大久保古墳群（角田市）



▲台町古墳群（丸森町）

◆民俗（信仰と寺社仏閣）

仙南地域は古くから白鳥飛来の地であり、日本武尊伝説や坂上田村麻呂による東方遠征に由来する「白鳥信仰」が広く浸透していたことから、村田町の白鳥神社や蔵王町の刈田嶺神社白鳥大明神などの古い歴史を有する寺社が多く分布しています。

蔵王連峰は、古くは「刈田嶺」や「不忘山」と呼ばれ、人々の信仰の対象でした。7世紀頃、修験道の本山である奈良の吉野から「蔵王権現」が勧請され平安時代に修験道が盛んになると、「蔵王」という呼称が定着するようになりました。刈田岳の山頂と遠刈田温泉には蔵王権現を祭った刈田嶺神社が鎮座しており、蔵王信仰の象徴地となっています。

角田市の勝楽山高蔵寺の阿弥陀堂は、宮城県最古の木造建築で、平安時代の治承元年(1177年)に、奥州藤原氏秀衡の妻女によって建立されたと伝えられています。阿弥陀堂は、堂内に安置された阿弥陀如来坐像とともに、国の重要文化財として大切に保存されています。また、斗蔵山も古くから霊山として崇敬され、斗蔵寺本堂には県指定文化財の銅造千手観音像懸仏が安置されています。地元では

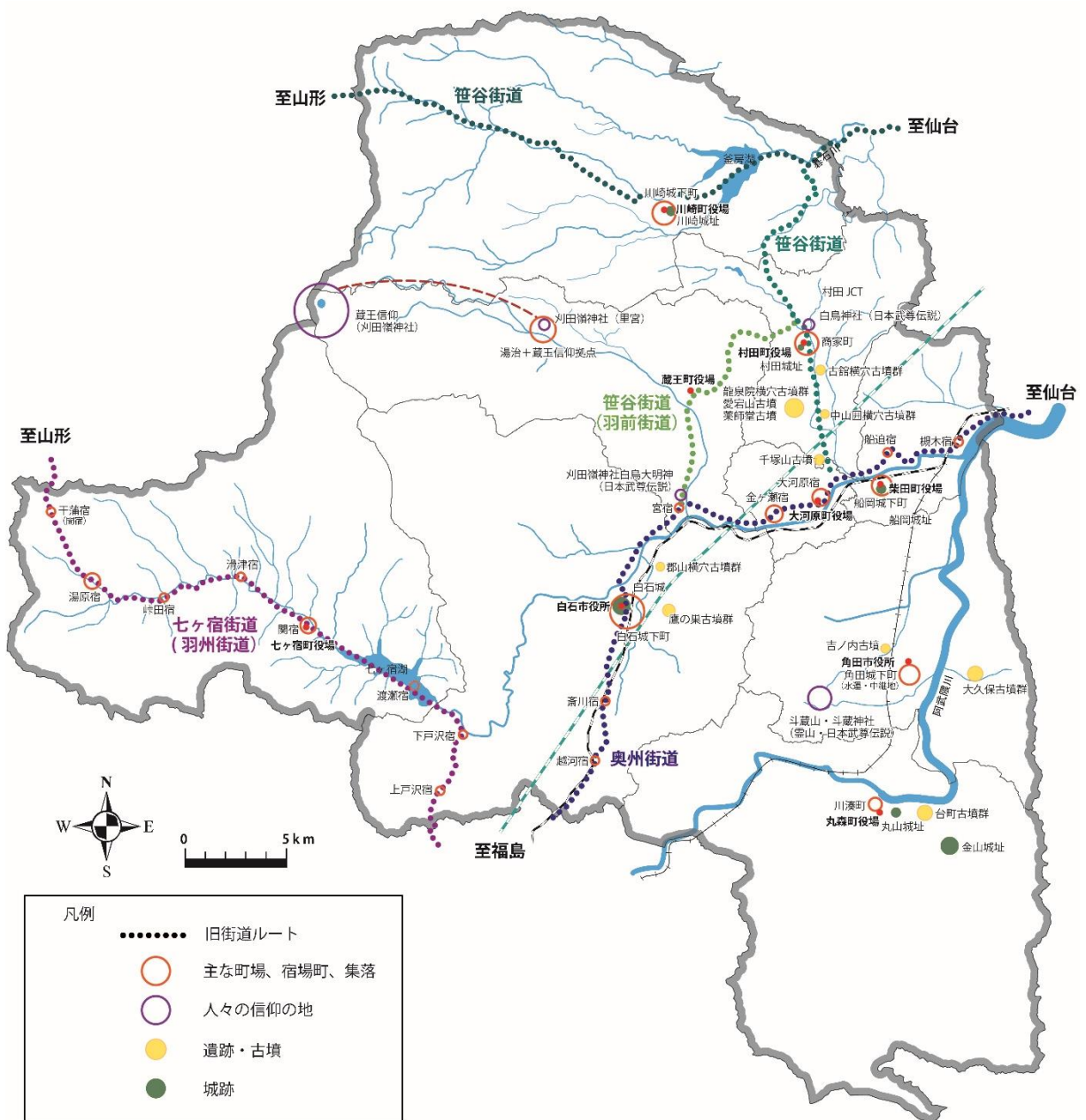
斗蔵山は「おとくらさん」と親しまれ、霊山信仰は、今でも地域の身近な山を大切に思う文化として残っています。



▲刈田嶺神社白鳥大明神（蔵王町）



▲斗蔵寺観音堂（角田市）



▲史跡・民俗に関する要素の分布

▼（参考）蔵王と人々の関わりを示す出来事や事柄

時代	出来事・事柄
古代	<ul style="list-style-type: none"> ・古今和歌六帖に不忘山を歌枕とした歌が残るなど、古くから人々にとってランドマークとなっていたことが伺える。 「みちのくに あふくま川の あなたにや <u>人忘れずの 山</u>はさかしき」 ・有史以来活発な火山活動が記録されており、それにより温泉が形成されてきた。 ○山岳信仰 ・刈田岳に刈田嶺神が祀られ、山岳信仰の対象となっていた。 ・刈田峰神が貞観 11 年(869)に従四位下を朝廷より授けられるなど、宮城・山形にまたがり信仰の対象となる寺社仏閣が立地していった。 ・当初は青麻山山頂に刈田嶺神社（神道）が鎮座していたが、平安時代初頭にはより人里に近くて便利な青麻山東麓に遷座した。 ・大和国吉野山・金峰山権現蔵王堂の祭神である蔵王大権現が分祀され、山麓に設けられた僧坊には、深山幽谷で荒行を積むことによって法力を培う「修験道」のために多くの修験者が集った。 ・修験者たちが道場とした山は、願行が蔵王大権現を祀ったことから「蔵王山」と呼ばれるようになった。
中世・近世	<ul style="list-style-type: none"> ・戦国時代中期には青麻山東麓の刈田峰神社が奥州街道と笹谷街道が交差する交通の要衝（現在の宮地区のもの）に遷座し、江戸時代には地域住民の信仰の要として崇敬された。 ・遠刈田温泉は刈田岳山頂の蔵王大権現社へ向かう参詣路上にあり、その管理を行っていた温泉街にある寺院嶽之坊内の蔵王大権現御旅宮へ冬季に季節遷座が行われるようになり、冬季の温泉街は参拝の対象地ともなっていた。 ・温泉地の土産物として、こけしが販売されるようになった。
近代	<ul style="list-style-type: none"> ・刈田岳山頂の蔵王大権現社と嶽之坊は神社となり、それぞれ刈田嶺神社（奥宮・里宮）となった。 ・大正時代よりスキー場が開設され、温泉・信仰に加えレジャーの場としても利用される場となっていた。 ・昭和 25 年には蔵王が全国観光地百選に一位当選し、全国的にその存在が知られることとなった。
現代	<ul style="list-style-type: none"> ・温泉やスキー場、自然を活用した景勝地等への観光客が来訪する観光地として定着している。 ・多くの小中学校の校歌で蔵王や不忘山等の名称が取り入れられており、現在でも地域のシンボルとして認識されていることが伺える。 ・小中学校の遠足先として蔵王連峰やその関連施設等が利用されており、児童にとっても親しみを持つことが出来る場となっている。

◆民俗（祭事とイベント）

仙南地域では、信仰に基づいた祭事に加え、地域に由来のある歴史的な著名人にちなんだお祭りや名産品を活かしたイベントなど、多様な行事が行われています。それぞれの行事に地域の特色や人々の誇りが現れており、仙南地域の景観を形づくる人々の文化の素地を垣間見ることができます。

・蔵の町むらた 布袋まつり（村田町）

「布袋まつり」の起源は古く、布袋和尚の徳を慕って、交易があった京都の山車まつりを参考に生まれたものと言われています。布袋囃子の笛のメロディーは、平安時代末期に「一ノ谷の合戦」で討ち死にした平敦盛が好んで奏でた曲で、平家の落人が村田町に伝えたと言われています。時代とともにその形は少しずつ変化し、今でも郷土色豊かな秋の伝統芸能として町民に広く親しまれています。



▲布袋まつりの様子（村田町）

・鬼小十郎まつり（白石市）

白石城は、かつては伊達家家臣の片倉家の居城でした。白石市では、大坂夏の陣で活躍し、鬼小十郎の名を馳せた二代目小十郎重長と、日本一之兵と呼ばれた真田幸村との激闘「道明寺の戦い」の再現などが見られる「鬼小十郎まつり」を開催しています。歴史的一幕の再演により、地域に対する誇りを再確認しながら、まちの賑わいを創出しています。



▲鬼小十郎まつりの様子（白石市）

・支倉常長まつり（川崎町）

幼少期を支倉村（現在の川崎町支倉地区）で過ごした支倉常長は、伊達政宗の家臣であり、慶長遣欧使節団としてヨーロッパに渡りました。川崎町では、支倉常長の偉業をたたえるとともに、故郷「かわさき」にまつわる歴史と文化を語り継ぐため、「支倉常長まつり」を開催しています。



▲支倉常長まつりの様子（川崎町）

・ おおがわら桜まつり（大河原町）

大河原町内を流れる白石川河川敷の桜は「一目千本桜」として有名ですが、大河原町では、毎年桜の開花にあわせ「おおがわら桜まつり」を開催しています。白石川沿いの桜は、地域の人々の憩いであるとともに、毎年多くの来訪者を楽しませる賑わいの場となっています。



▲おおがわら桜まつりの様子（大河原町）

・ そばまつり（川崎町，村田町，七ヶ宿町，柴田町）

仙南地域ではそばの栽培も多く行われており、毎年11月上旬に各地でそばまつりが開かれ、地域の人々や来訪者に秋の味覚を提供しています。



▲蕎麦まつり（村田町）



▲蕎麦まつり（七ヶ宿町）

◆民俗（民俗工芸）

仙南地域で作られている工芸品は、生業の合間や農閑期に行われていた工芸が今に伝わり特産物となっています。それらが作られてきた背景を通して、地域の人々の暮らしや文化のあり様を知ることができます。

・木地師集落とこけし文化

こけしは東北地方の風土から生まれ育った素朴な工芸品であり、山地などによって系統が分かれ、仙南地域では、「遠刈田系こけし」（蔵王町・遠刈田温泉）と「弥治郎系こけし」（白石市・鎌先温泉）が代表されます。こけしの由来は、お椀やお盆などを作っていた木地師が子供向けの遊び道具として、男の子は独楽、女の子はこけしとして作られてきたものであると伝えられています。こけしは地元の温泉地とともに発展し、こけしを作る工人である木地師の集落も温泉地に近接して形成されてきました。

遠刈田系こけしは、大きめの頭と細い胴が特徴で、最古の伝統を持つと言われています。一方で、弥次郎こけしの特徴は、頭が大きく、頭頂には豊かな色彩で二重三重のロクロ模様を描くところにあります。弥治郎地区は半農半工の地域で、農閑期にこけしを作り、鎌先温泉の湯治客に木地屋の女房たちが旅館の部屋をまわって売ることを「鎌先商い」と呼んでいたそうです。

このような歴史背景があるこけしは、現在では観賞用として収集され、大人の目を楽しませてくれているばかりでなく、遠刈田温泉の松川にかかるこけし橋（遠刈田大橋）のように、地域のランドマークとしてまちの特徴的な景観をかたちづくっているなど、工芸品の範疇を超え仙南地域を語る上で欠かせない景観要素となっています。

・白石和紙

平安時代の中期頃、東北地方の紙は「みちのく紙」と呼ばれ、格調の高い紙であったと評されています。白石和紙はみちのく紙の流れをくみ、仙台藩主は領内殖産のひとつとして紙すきを奨励し、刈田、白石地方は水質と原料である楮（こうぞ）に恵まれたことから、良質な和紙を産出していました。和紙の種類も数十種にも及び、冬の間は楮市、紙市が白石で開かれ、藩内はもとより東北各地に出荷されていました。また、楮の強靭さを活かし、紙の糸で織られた紙布織や紙で作られた紙衣など衣服にも使用され、紙布織は将軍家などへの献上品ともされるなど、珍重されていたことがうかがえます。

一時はほとんど廃れてしまいましたが、昭和初期に伝統的な手すき和紙づくりを再興し、現在でも郷土を愛した人々の手により、白石和紙づくりを伝える取組が続けられています。

・丸森町のわら細工・竹細工

稲作が始まって以来、「わら」は衣・食・住・生業・運搬・祝い事と生活全般にわたって活用されてきました。丸森町では、わら細工の文化を次世代へ伝承するため、町の特産品としてわら細工を生産されています。竹細工も古来より生活用品として活用されており、製作技術を次世代に継承していくため、民芸品として生産されています。

⑥これまでの景観形成に関する主な取組

仙南地域では、近代以降人々の手により自然環境の保全や歴史的建造物の保護、地域の新たな魅力作りなど様々な取組が行われています。それらの取組により、仙南地域を特徴付ける景観が守られ、新たな価値を生み出しています。

・白石川の一目千本桜

大河原町から柴田町にかけて白石川の土手を彩る桜並木は、大正12年に大河原出身の実業家「高山開治郎」が白石川の改修工事の折に寄贈し、植樹されたものです。開治郎は、当時冷害や水害で疲弊していた故郷を憂い、「長く心に残るものを」という思いから合計1,200本ものソメイヨシノを寄贈し、それらは地元の職人や学生によって植樹されました。その思いは、今でも地域の住民に受け継がれ、現在も毎年美しい桜の景観を見ることができます。

・蔵王連峰における国定公園の指定

蔵王連峰は、山頂から山すそまでの広い範囲に、国定公園と県立自然公園が指定されています。これにより、おおよその開発行為は制限され、豊かな自然景観の保全がなされています。

・村田町における伝統的建造物群保存地区の取組

村田町では、昭和40年代頃から土蔵造りの店舗が近代的意匠の建物への建て替えが目立つようになり、街並みの連続性が失われていきました。昭和50年代になると、残された土蔵が観光資源として見直され、また平成23年の東日本大震災により土壁などが損壊したことから、蔵が建ち並ぶ街並みを後世に残していくため、伝統的建造物群保存地区制度の導入に取り組み、平成26年に重要伝統的建造物群保存地区に選定されました。

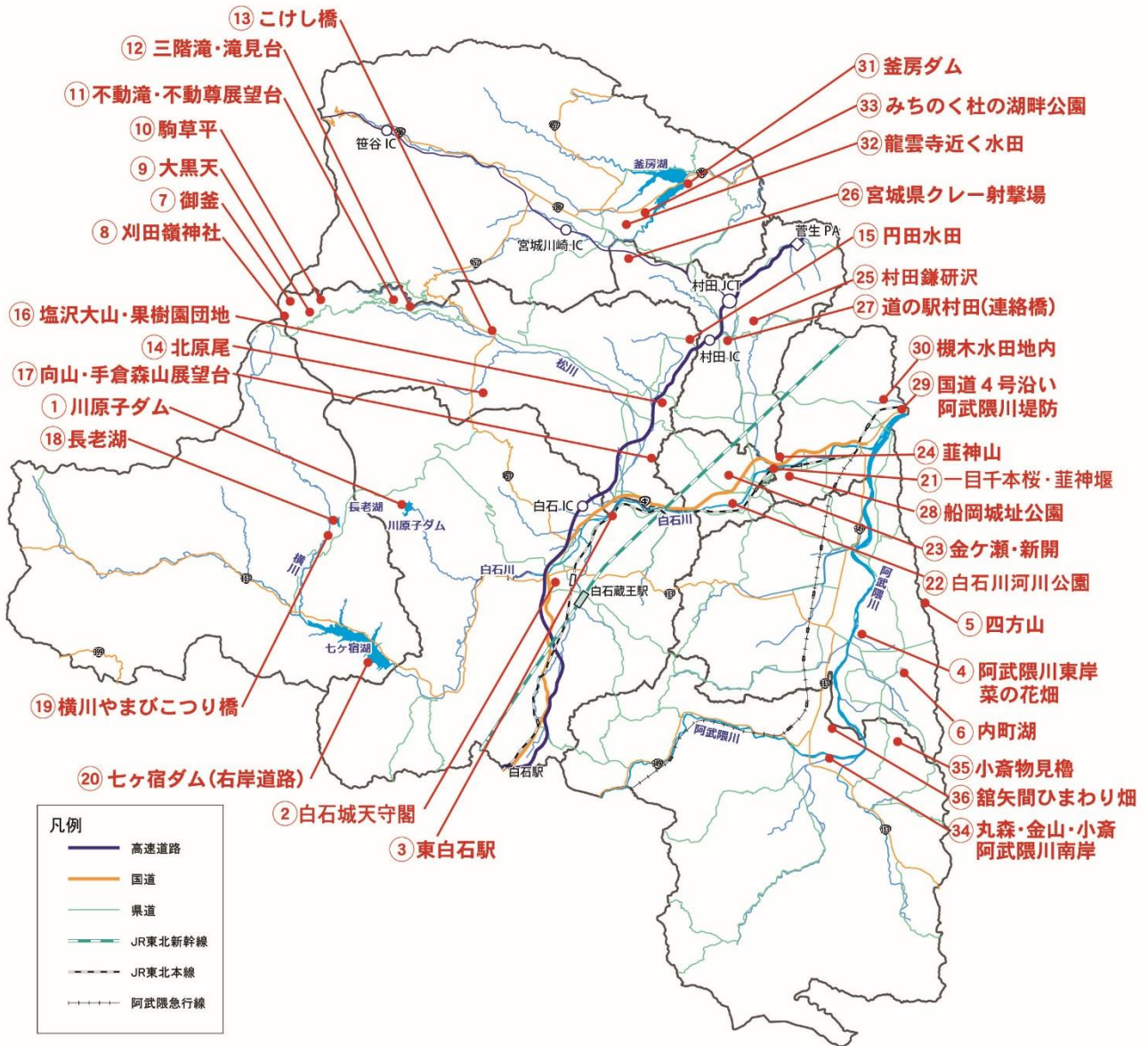
・高蔵寺周辺での取組

角田市高蔵寺の門前を流れる高倉川は、ホタルの保全・育成活動や田んぼアートの取組など、地域住民による取組が積極的に行われています。

ホタルの育成・生育環境の保全活動は、地域ボランティアの手により取り組まれており、毎年「高蔵寺ホタルまつり」が開催されています。また、田んぼアートは地域住民や地域おこし協力隊などによって取り組まれており、毎年見事な図柄が田んぼに表現され、人々の目を楽しませています。

・みやぎ蔵王三十六景

宮城県では、仙南地域や蔵王連峰を望む魅力ある景観を広く周知するため、「みやぎ蔵王三十六景」の選定を行っています。雄大な蔵王連峰を望む景観から、仙南地域の人々が暮らす日々の生活に溶け込んだ景観など、多様な視点から36箇所の景勝地を選んでいきます。



▲みやぎ蔵王三十六景 位置図

▼（参考）みやぎ蔵王三十六景

<p>1 川原子ダム/白石市</p> 	<p>2 白石城天守閣/白石市</p> 	<p>3 東白石駅/白石市</p> 
<p>4 阿武隈川東岸・菜の花畑/角田市</p> 	<p>5 四方山/角田市</p> 	<p>6 内町湖/角田市</p> 
<p>7 御釜</p> 	<p>8 刈田嶺神社</p> 	<p>9 大黒天/蔵王町</p> 
<p>10 駒草平/蔵王町</p> 	<p>11 不動滝・不動尊展望台/蔵王町</p> 	<p>12 三階滝 ・滝見台 /蔵王町</p> 
<p>13 こけし橋/蔵王町</p> 	<p>14 北原尾/蔵王町</p> 	<p>15 円田水田/蔵王町</p> 
<p>16 塩沢大山・果樹園団地/蔵王町</p> 	<p>17 向山・手倉森山展望台/蔵王町</p> 	<p>18 長老湖/七ヶ宿町</p> 

▼（参考）みやぎ蔵王三十六景（つづき）

19 横川やまびこつり橋/七ヶ宿町 	20 七ヶ宿ダム（右岸道路）/七ヶ宿町 	21 一目千本桜・葦神堰/大河原町 
22 白石川河川公園/大河原町 	23 金ヶ瀬・新開/大河原町 	24 葦神山/村田町 
25 村田鎌研沢/村田町 	26 宮城県クレー射撃場/村田町 	27 道の駅村田（連絡橋）/村田町 
28 船岡城址公園/柴田町 	29 国道4号沿い阿武隈川堤防/柴田町 	30 槻木水田地内/柴田町 
31 釜房ダム/川崎町 	32 龍雲寺近く水田/川崎町 	33 みちのく杜の湖畔公園/川崎町 
34 丸森・金山・小斎阿武隈川南岸/丸森町 	35 小斎物見櫓/丸森町 	36 館矢間ひまわり畑/丸森町 

出典：みやぎ蔵王三十六景ナビゲーションマップ（宮城県大河原地方振興事務所）

2. 広域的観点から見る仙南地域の景観特性

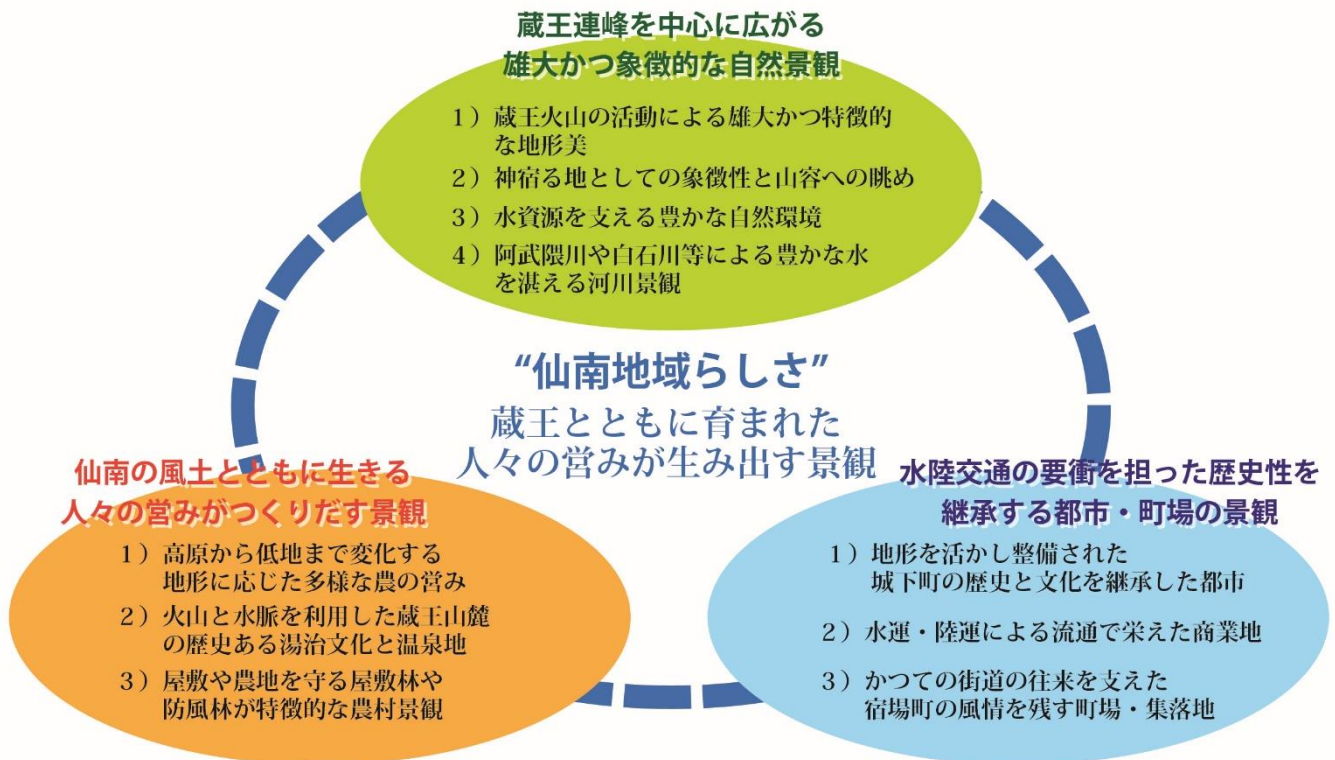
仙南地域の景観は、あらゆる場所からその姿を目にすることができる蔵王の山岳景観を象徴とした山や川が織り成す自然景観と、仙南地域の風土とともに人々が生きてきた歴史・文化、営みが一体となって、“仙南地域らしさ”を醸し出しています。

その蔵王を中心に多様に変化する地形において、仙南地域の人々の知恵と工夫により、その土地に応じた営みが育まれています。高原での牧場やそば畑、山麓での果樹園、広がりのある河川沿いの平野部での田園等は、豊かな恵みをもたらす生業とともにある景観として目にすることができます。古くから湯治場として栄える温泉地も、火山である蔵王の恵みを活かす人々の営みがつくりだす景観です。

市街地は、仙南地域の地理的特性を背景に、中世から近世にかけて国境の要衝として、陸上交通網である街道や水上交通網である川によりネットワークされながら、人や物の交流を育み、形成された都市・町場の景観が、時代とともに少しずつ変化しながら、現在の市街地景観をつくり出しています。

また、仙南地域の人々は、太古から神山として蔵王の山々を敬い、その自然を大切に守ってきました。

広域的な観点からみる仙南地域の景観特性とは、地域の象徴である“蔵王”などの豊かな自然を礎に、蔵王とともに育まれた人々の営みが生み出す景観が表れているものであり、これが“仙南地域らしさ”の醸成につながっていると考えます。



▲仙南地域の景観特性（全体像）

(1) 特性1 蔵王連峰を中心に広がる雄大かつ象徴的な自然景観

- 1) 蔵王火山の活動による雄大かつ特徴的な地形美
- 2) 神宿る地としての象徴性と山容への眺め
- 3) 水資源を支える豊かな自然環境
- 4) 阿武隈川や白石川等による豊かな水を湛える河川景観

1) 蔵王火山の活動による雄大かつ特徴的な地形美

御釜を中心とする地蔵山，熊野岳，刈田岳などからなる蔵王火山は，過去数千回もの噴火を繰り返しながら現在の山体を形成した活火山です。「山の上の火山」と称されるように，蔵王火山は隆起した奥羽山脈の上に載っており，蔵王連峰がつくりだす山岳地は，複雑な地形から構成されています。

五色岳・御釜や，駒草平，馬の背等の数多くの景勝地は，火山活動による噴火や溶岩流により形成された地形，崩壊地形等，さまざまな景観を形成しており，これらは他に類を見ない奥羽山脈と蔵王火山が数万年の時間とともに作りだした雄大かつ特徴的な地形美をもつ景観です。

これらの特徴ある地形美は，国定公園等の指定により自然環境の保全を図りつつ，多くの来訪者を魅了し，仙南地域を代表する美しい自然景観として地域内外の人々に親しまれています。

2) 神宿る地としての象徴性と山容への眺め

蔵王連峰は，奈良時代に蔵王権現の分霊が勧進された後，噴火の度に神聖化が進み神山として崇められ，平安時代の修験道による山岳信仰（蔵王信仰）の聖地と相まって，神宿る地としての象徴性を持つようになりました。さらに，江戸時代には，大小の溶岩が露出する荒涼とした景観があこの世とこの世を結ぶ地として認識され，その地へ赴くことは生まれ変わりによる功德となることから，民衆の間にも蔵王参詣が流行し，多くの人々が訪れるようになり，ますますその象徴性が高まりました。

この蔵王がもつ神宿る地としての性質は，蔵王を訪れることや蔵王信仰に関わらず，次第に仙南地域で生きる人々にとっても，その山容への眺めをもって象徴的な存在として感じられるようになっていけると言えます。

脈々と人々の心に受け継がれてきた蔵王の象徴性は，仙南地域のどこからでも見える蔵王連峰の山容への眺めを通し，仙南地域らしさとして多くの人々の心に宿る景観となっています。

3) 水資源を支える豊かな自然環境

蔵王連峰を中心とする奥羽山脈は，夏の雨，冬の積雪により豊かな水を湛える

山地であり、その水資源は、白石川水系である松川をはじめとした多くの河川や湧水として、仙南地域に恵みをもたらしています。

これらの水資源は、河川沿いの農地を潤すとともに、白石川上流に整備され七ヶ宿湖や名取川の釜房湖等のダム湖では、水道用水やかんがい用水等に利用され、仙南地域や仙台都市圏の多くの人々の暮らしを潤す貴重な資源を担っています。

この豊かな水の環境は、蔵王連峰をはじめとした山（森）の環境の豊かさ（健全さ）の表れであり、山における森と水がつくりだす自然環境は、仙南地域全体の土地の豊かさを支える自然景観であるといえます。

4) 阿武隈川や白石川等による豊かな水を湛える河川景観

福島県に源流をもつ阿武隈川は、宮城県境の丸森町から角田市にかけて、川幅を広げながら緩やかな流れとともに河道が大きく蛇行し、それにあわせて形成される瀬淵とともに変化に富んだ美しい水辺の景観を形成しています。丸森町では、水運とともに栄えた歴史を活かし、この豊かな阿武隈川におけるライン下り観光も行われ、船上（水上）からの川の眺めが多くの人に楽しまれています。

蔵王連峰に源流をもつ白石川では、白石市街から一定の川幅をもった穏やかな流れとなり、大河原町から柴田町にかけて土手には多くの桜並木が整備され「一目千本桜」として多くの人に親しまれています。また、角田市街地周辺では、阿武隈川の河川敷において、桜並木と菜の花が整備されるなど、仙南地域を流れる河川には、花や木々と水の流れが織り成す美しい水辺景観が形成され、これらもまた仙南らしさを育む景観となっています。



▲御釜（蔵王町）



▲蔵王連峰の山容（角田市）



▲白石川上流の水芭蕉群生地
（七ヶ宿町）



▲白石川沿いの桜並木（柴田町）

(2) 特性2 仙南の風土とともに生きる人々の営みがつくり出す景観

- 1) 高原から低地まで変化する地形に応じた多様な農の営み
- 2) 火山と水脈を利用した蔵王山麓の歴史ある湯治文化と温泉地
- 3) 屋敷や農地を守る屋敷林や防風林が特徴的な農村景観

1) 高原から低地まで変化する地形に応じた多様な農の営み

仙南地域では、蔵王を中心とした奥羽山脈や阿武隈山系により、仙南地域の地形は変化に富んでいると同時に、標高 1,800mを超える蔵王連峰による標高差から場所により気候風土も大きく異なります。

七ヶ宿町では、高原の気候や地形条件に応じた牧場経営やそば栽培等、特色ある農の営みが育まれ、丸森町の山間地等では斜面地での棚田による稲作の風景も見られます。蔵王山麓に位置する蔵王町では丘陵地形にそって果樹園が広がり、栽培される果物は蔵王町の特産品となるなど、変化する地形に応じた農の営みが地域ごとの特色ある景観となっています。また、豊かな水を湛える阿武隈川や白石川等の河川沿いには沖積平野が広がり、豊かな水環境とあわせ、稲作を中心とした広々とした田園景観が見られます。

これら、農の営みがつくり出す景観は、季節によって刻々とその姿を変化させることで季節を感じさせ、それらを生業とする人々が暮らす集落地と一体となつて、仙南地域の豊かさを醸し出す景観のひとつとなっています。

2) 火山と水脈を利用した蔵王山麓の歴史ある湯治文化と温泉地

蔵王連峰の火山性の地形と豊かな地下水は、山麓において温泉の恵みをもたらし、古くから各地に湯治場が形成され、多くの人々を癒してきました。近世に始まる蔵王参詣や、近代の蔵王の自然を楽しむ観光も影響し、これらの湯治文化は次第に多くの来訪者を癒し楽しませる温泉地として、今では仙南地域を特徴づける営みのひとつとなっています。

仙南地域の温泉地は、旅館等の数はあまり多くはないものの、蔵王の美しい自然と調和した静かな風情ある景観を形成しているのが特徴のひとつです。

また、山間地で生活を始めた木地師による工芸品のひとつであるこけしづくりも相まって、温泉地の土産品として店先に並ぶようになるなど、仙南地域の湯治文化が生み出した特徴ある景観が受け継がれています。